

学校だより



くろくふう

校訓 継続は力なり

鴻巣市立吹上中学校

学校だより「緑風」は、毎月本校HPに掲載しています。

本校HP <https://fukiage-j-konosu.edumap.jp/>

令和4年6月1日(水) 第3号

吹上中学校の強みを伸ばそう

校長 二瓶 亮

先月の21日(土)に第75回体育祭が行われました。今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、種目の制限や練習時間の削減などを行い、感染リスクを下げた中での実施となりました。途中、降雨のための中断があったり、実施種目の順番を変えたりしながらでしたが、大勢の保護者のご参観のもと、全種目を行うことができました。保護者の皆様からの温かなご声援・ご協力を賜りましたことに心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

生徒たちも、それまでの練習の成果を遺憾なく発揮し、代表生徒の宣誓の中の「笑顔と互いをたたえる心を忘れず、本気で競技する姿を見せます」の言葉どおり、コロナ禍でも記憶に残る体育祭をやり遂げてくれました。特に3年生は後輩たちに見本となる姿を見せてくれて「吹上中学校は3年生でもつ」ことが体現された体育祭となりました。校長としてたいへん誇りに感じています。

さて、本校では、5月31日(火)に1学期中間テストを行いました。中学校の定期テストはそれまでの学習の定着度や理解度について確認することを目的として行っています。結果が点数で出るので、どうしても点数に一喜一憂してしまいがちですが、大事なことは日々の授業を大切にするとともに、学んだことを復習して「知識」として身に付けること、身に付けた「知識」を活用して様々な課題に挑むこと、つまりテストに至るまでの「過程」と「その後」を大事にすることです。テストを通して何がうまくいって、何が足りなかったのか、自分の現状を把握し、学習に対する姿勢や授業に向かう姿勢を見直すきっかけにつなげることが大切です。

また、学校では点数で測ることが難しい「非認知能力」の育成にも力を入れて取り組んでいます。「非認知能力」とは、「目標や意欲、興味・関心をもち、粘り強く、仲間と協調して取り組む力といった、測定できない個人の特性による能力」といわれています。例えば、「やり抜く力」「目標に向かって頑張る力」「自制・自律性」「コミュニケーション能力」「共感力」「協働力」「レジリエンス(逆境に勝つ力)」などが挙げられます。学力のように1人で身につけられるものとは異なり、集団での行動の中での困難や失敗、挫折などの経験を通して養われるものが多く、先日の体育祭はまさにこれらの力を身に付けるのに必要不可欠な行事でした。さらに、「非認知能力」の向上が認知能力(学力など)の伸びを促進するともいわれています。学校行事や部活動に全力で取り組み、生徒自らの手で中学校生活を盛り上げるところが本校の強みの1つです。

変化が激しく、10年後、20年後の社会を予測するのは困難であると言われる時代、丸暗記的な仕事はAIがすべてやってくれる時代、そんな時代をたくましく生き抜くには、持っている知識・技能をフル活用し、他者と協働して課題を解決すること、多様性社会を受容し、多面的・多角的にとらえて新しいものを創り出すことなど「非認知能力」の必要性が叫ばれています。コロナ禍で様々な制限はまだ続きそうですが、できる部分で、全教職員が知恵を絞り、生徒たちの自主的な活動となる舞台を用意して吹中生の「非認知能力」も育みます。吹中生の成長には、保護者の皆様、地域の方々のご支援、ご協力が欠かせません。引き続き、本校の教育活動へのご理解、ご協力をお願いします。